

式 辞

本日ここに、富山県立総合衛生学院看護学科の閉科式を迎えることになりました。

ご来賓の方々、歴代学院長先生はじめ旧職員の方々、同窓生の皆様のご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

看護学科は、昭和26年に保健師助産師看護師法に基づき、私立不二越病院附属甲種看護婦養成所から継承し、富山県立中央病院附属高等看護学院として設立され、20名の看護師養成が始められました。

昭和46年に富山県立総合衛生学院に改称され、昭和50年看護学院一部を第一看護学科、二部を第二看護学科としましたが、平成20年には第二看護学科を閉科し、第一看護学科を看護学科として改称しました。

富山県立中央病院附属高等看護学院として19年間、富山県立総合衛生学院として50年間に5261人の有能な看護師を送り出してきました。

設立当初から隣接した富山県立中央病院で臨地実習を行い、最先端の医学・医療を学び、高度医療の看護を経験した卒業生達は、現在も多数が、保健医療福祉の各分野で活躍し、大きな役割を果たしています。

看護学科は、看護師として看護の実践活動を通して保健医療福祉に貢献する能力をもった人材を育成することや、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備え、県民に寄与できる看護職を育成することを目的として教育にあたってきました。

学院の初代教務主任、県立中央病院の初代総婦長であられた牧田きせ先生は、顕著な功績のあった看護師等に贈られる世界最高の記章であるフローレンス・ナイチンゲール記章を受賞されました。牧田先生は「卒業生をたくさん社会に送り出し、その活動により社会を明るくしたい。」との言葉を残しておられます。

牧田先生の崇高な精神は、今日まで脈々と受け継がれ、質の高い教育への弛まぬ努力が伝統となり、卒業生の皆さんは、3年間で学業のみならず、多くのことを学び得ました。

また、戴帽式の「看護の勉学と明日への献身」を誓う学生達の真摯な姿は印象深く心に残っているとともに、実習に送り出す私達の決意ともなりました。

昨今の社会・医療は数々の問題を抱え、看護に求められることも多

岐に亘り、看護職者の自律が求められています。本校で看護の原点を学んだ卒業生の皆様が、今後さらに活躍されることを願っています。

約 70 年の歴史を刻んだ看護学科は閉科となりますが、「富山県立総合衛生学院の軌跡」のコーナーに思い出の品や資料などを永く残します。卒業生の方々には一度は訪れていただき、学生時代を思い起こし、友と語らい、今後の人生において励ましの場となれば幸いです。

最後になりましたが、これまで本学院の運営にご尽力をいただいた多くの方々、温かいご指導・ご支援により学生を慈しみ育てていただいた皆様に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

そして、皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして閉科に寄せる言葉とします。

令和 3 年 3 月 4 日

富山県立総合衛生学院
学院長 稲村 睦子